

歴史の道に新しい息吹を 蘇れハゼ並木

旧国道57号沿いの熊本市龍田町弓削校区を通るハゼ並木道（旧大津街道）。江戸時代、赤穂浪士47名のうち17名がご沙汰前に肥後細川藩預けとなり、手厚い処遇を受けたことに感謝して藩に贈ったもので、清正公の杉並木とともに



大津街道を行き交う人々の心を和ませたそうです。

そのハゼ並木がつるや雑草に絡まれていたのを目にして、「森の都・熊本」の街道並木樹がこれよいか、という思いから立ち上げたのが当会です。

会員は弓削校区居住者を中心に47名。弓削校区を通る並木道約2kmの枯木跡に約200本を植栽して以降、年4回以上の清掃、草刈、補植などを行い、並木の保護と景観美化にあたってきました。活動の目的も郷土旧跡の保護育成、「森の都・熊本」の魅力づくり、排気ガス緩和による地球温暖化防止と大きく



く持っています。夏は緑に輝き、秋は赤く燃えたつハゼ並木は今、ボランティアの手によって蘇りつつあります。